

介護事務を支援

ITコンサルティンク・システム開発のJPC（那珂市横堀、三瓶哲也社長）が、デイサービスなど介護施設の事務作業を支援するソフト「カイサボ」の販売に乗り出した。タブレット端末を使い、施設利用者の介護データをインターネット上で保存するクラウドコンピュータで一元管理する。日報や請求書など書類作成にかかる時間が大幅に短縮し、介護現場の負担軽減に期待できそうだ。

ITコンサルのJPC



介護施設の業務IT化を図る支援ソフト「カイサボ」■那珂市横堀

ソフト開発 書類作成を短縮

会社によると、介護施設では、介護保険料の請求や介護計画を作成するために、施設利用者の健康状態や食事の摂取量、服薬や入浴の状況管理など多くの情報を毎日記録しなければならぬ。ただ、多くの介護現場は記録用紙への書き込みが中心で、介護データを書類ごとに書き写すのに時間がかかったり、記載ミスしたりして職員の負担は大きいという。

カイサボは、タブレット端末のパネルを操作して利用者の介護データを入力すると、そのデータを基に日報や料金請求に関する書類などが自動的に作成される仕組み。ソフト導入で労働時間短縮や書類保管スペースが不要になるといい、書類作成にかかる時間はソ

フト導入前の2割以下に削減できるという。ソフト開発に当たっては、JPC社員が通所施設に1カ月間常駐し、職員の声を反映させた。

同社は、サービス提供に当たり、タブレット端末2台とノートパソコン1台を貸与。導入時の操作説明や故障時の無償交換、介護保険制度の改正に伴うシステム変更などのサービスも提供する。介護データは同社がクラウドコンピュータで管理し、ドキュメントを活用して10年間にわたって一括管理するため、施設側の省スペースにもつながるとい

同社は4月から本格的な販売を開始し、7月までに水戸市内の2事業所が利用しているという。長沢博之次長は「ソフト導入で空いた時間を、本来の介護業務や労働時間短縮につなげてもらいたい」と話している。

（大平賢二）